

『定本 野口雨情』未収録童謡報告

菊池真一

未来社刊『定本 野口雨情』によって雨情作品は網羅されたかのようにあるが、漏れがあった。『国民附録』大正十四年九月号（八月二十日発行）の二四ページに「手紙を書く頬白」と題する童謡が掲載されている。該本の目次では「童謡 野口雨情（三四）」となっている。

手紙を書く頬白

頬白の囀るのを遠くから聞いて
ゐますと、「二筆啓上、一筆啓上」
と聞えます。東北の田舎では頬
白と言はずとも「二筆啓上と啼
く鳥」と言へば誰でもわかつて
をります

野口雨情

お藪にとまつて

頬白は 頬白は

啼き啼き お手紙

書きました

読み読み 書いても

一筆啓上 一筆啓上

書き書き 読んでも

一筆啓上 一筆啓上

いつまで 書いても

頬白は 頬白は

読んでも 書いても

一筆啓上 一筆啓上

御用のたりない

お手紙を お手紙を

お藪にとまつて

書きました